

## 衛生管理（衛生管理技術）問題

- 1 消毒方法に関する次の文章の〔 〕内に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。  
「わが国では、微生物を殺すことを一般的に〔 A 〕というが、微生物の中でも、病原微生物を殺すか除去して感染力をなくすことを〔 B 〕という。また、〔 C 〕とは、あらゆる微生物を殺すか、除去して微生物の存在をなくすことをいう。」
- ① 〔A〕滅菌 〔B〕消毒 〔C〕殺菌                      ③ 〔A〕消毒 〔B〕防腐 〔C〕殺菌  
② 〔A〕殺菌 〔B〕防腐 〔C〕滅菌                      ④ 〔A〕殺菌 〔B〕消毒 〔C〕滅菌
- 2 美容所における衛生管理に関する次の文章の（ ）内に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。  
「微生物を殺すことの総称は（ A ）である。生きている微生物が存在しない状態にすることを（ B ）という。微生物の中でも病原微生物を死滅させるか、発育や増殖を止めて感染力をなくすことを（ C ）という。美容所で求められるのは、（ C ）である。」
- ① A：滅菌 B：消毒 C：殺菌                      ③ A：滅菌 B：殺菌 C：消毒  
② A：殺菌 B：消毒 C：滅菌                      ④ A：殺菌 B：滅菌 C：消毒
- 3 美容所における消毒等に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 病原微生物の付着した器具に触れて、手指に病原微生物が付着した状態を「感染」という。  
② 病原微生物を殺すか除去して、感染力をなくすことを「消毒」という。  
③ 消毒には、必ず消毒薬を用いなければならない。  
④ 美容師法施行規則で定められている器具の消毒方法は、あらゆる微生物を殺すか除去して、生きている微生物が存在しない状態にする方法に限られている。
- 4 消毒に関する次の文章の（ ）内に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。  
「微生物を殺すことの総称は、（ A ）である。あらゆる微生物を殺すか除去して、生きている微生物が存在しない状態にすることは、（ B ）である。また、微生物を殺さないまでも、さまざまな方法によってその発育や作用を止めて、目的のものの腐敗を防ぐことは、（ C ）である。」
- ① A：消毒 B：殺菌 C：除菌                      ③ A：消毒 B：殺菌 C：防腐  
② A：殺菌 B：滅菌 C：防腐                      ④ A：殺菌 B：滅菌 C：除菌
- 5 消毒法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 加熱消毒では、湿熱よりも乾熱の方が殺菌時間は長い。                      ③ 薬液消毒では、温度が低ければ殺菌時間は短くなる。  
② 加熱消毒では、煮沸よりも蒸気の方が殺菌時間は短い。                      ④ 薬液消毒では、濃度が下がれば殺菌時間は短くなる。
- 6 消毒方法と適用上の注意に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 湿熱より乾熱の方が殺菌効果が高い。  
② 化学的消毒法における消毒では、消毒薬使用液（希釈液）の温度の上昇に伴い殺菌効果は高まる。  
③ 美容所で使用する消毒薬使用液（希釈液）は、汚れの程度により毎月取り替える必要がある。  
④ 蒸気消毒より煮沸消毒の方が長時間を要する。
- 7 消毒・殺菌に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 加熱殺菌には乾熱と湿熱（煮沸や蒸気）があるが、同じ温度と時間であれば乾熱のほうが殺菌効果が高い。  
② 蒸気消毒と煮沸消毒を比較した場合、蒸気消毒のほうが長い時間を要する。  
③ 化学的消毒法における消毒では、消毒薬水溶液の温度は低いほど効果がある。  
④ 殺菌効果の3要素は、温度、湿度及び時間である。
- 8 消毒・殺菌に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
- ① 加熱殺菌には乾熱と湿熱があるが、乾熱の方が殺菌されやすい。  
② 化学的消毒法による殺菌効果の3要素は、温度、時間、濃度である。  
③ 蒸気消毒と煮沸消毒を比較したとき、蒸気消毒は煮沸消毒より時間がかかる。  
④ 消毒薬の殺菌作用は一種の化学反応であって、乾燥した状態では反応が進行しにくい。
- 9 消毒に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 乾熱は、湿熱より短時間で消毒できる。                      ③ 消毒薬による消毒は、低温で行った方が有効である。  
② 蒸気は、煮沸より短時間で消毒できる。                      ④ 消毒薬には、消毒しようとする対象によって適した濃度がある。
- 10 消毒薬使用液(希釈液)の交換時期に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 0.05%グルコン酸クロルヘキシジン水溶液は、汚れの程度により7日以内に取り替えなければならない。  
② 0.1%逆性石けん水溶液は、汚れの程度により7日以内に取り替えなければならない。  
③ 0.01%次亜塩素酸ナトリウム水溶液は、毎日交換するが、0.1%水溶液は7日以内に取り替えなければならない。  
④ 76.9～81.4%エタノール水溶液は、蒸発や汚れの程度により7日以内に取り替えなければならない。
- 11 消毒を行う際の注意事項に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 消毒薬使用液(希釈液)は、エタノールの場合は毎日、その他の消毒薬については2週間に1回以上取り替える。  
② 使用後の器具は、汚れを洗浄する以前に、速やかに消毒することを心がける。  
③ 皮膚に接する器具や布片類の消毒には、消毒薬だけでなく理学的消毒法を用いても差し支えない。  
④ 消毒する器具の材質は、消毒法を選択する際の見極めには重要な要素でない。

**12 美容師法施行規則に定められている皮膚に接する器具の消毒に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 85マイクロワット/平方cm以上の紫外線を20分間以上照射する。 ③ 80℃以上の温湯中に2分間以上浸す。  
② 0.1%以上の逆性石けん水溶液を含ませた綿又はガーゼで拭う。 ④ 0.1%の逆性石けん水溶液を含ませた綿又はガーゼで拭う。

**13 殺菌条件の温度と時間に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 芽胞は、100℃の沸騰水中で殺菌できる。 ③ 化学的消毒法による殺菌効果は、消毒液の温度が低いほど効果が増す。  
② 栄養型の細菌は、80℃以上では数分で殺菌できる。 ④ 蒸気殺菌は、煮沸殺菌より短時間で殺菌ができる。

**14 美容所における消毒に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① 使用後の器具は、消毒の前に十分洗浄しなければならない。  
② 皮ふに接したかみそり以外の器具の消毒方法は、血液の付着又はその疑いの有無によって区分される。  
③ 刷毛、くしは皮ふに接する器具にあたる。  
④ 美容師法施行規則に定められている消毒方法と同等以上の効果があれば、他の消毒方法を用いてもよい。

**15 消毒に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① 希釈した逆性石けんは、7日ごとに取り換える。  
② エタノールは蒸発しやすいので、ガーゼに含ませて清拭する方法では、長時間作用させることは難しい。  
③ 次亜塩素酸ナトリウムによる消毒は、温度により効果が異なる。  
④ 紫外線消毒器の紫外線ランプは、2,000～3,000時間の照射で出力が低下する。

**16 病原微生物の抵抗力に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① 結核菌は、塩素剤に対して抵抗力が弱い。 ③ 赤痢菌は、熱に対して抵抗力が弱い。  
② 破傷風菌は、熱に対して抵抗力が強い。 ④ ウイルスは、逆性石けんに対して抵抗力が強い。

**17 血液が付着した布片類の消毒法として、適しているものの組合せは、次のうちどれか。**

- ① 蒸気消毒 —— 0.1%次亜塩素酸ナトリウム消毒 ③ 煮沸消毒 —— 0.1%逆性石けん消毒  
② 煮沸消毒 —— 0.1%次亜塩素酸ナトリウム消毒 ④ 蒸気消毒 —— 0.1%逆性石けん消毒

**18 消毒の方法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 血液が付着したはさみは、1cm<sup>2</sup>当たり85マイクロワット以上の紫外線を20分間以上照射する  
② 血液が付着していないかみそりは、エタノールが76.9～81.4%の水溶液を含ませた綿もしくはガーゼで表面を拭く  
③ 血液が付着していないブラシは、逆性石けんが0.1%以上である水溶液に10分間以上浸す  
④ 血液が付着したくしは、次亜塩素酸ナトリウムが0.01%以上の水溶液に10分間以上浸す

**19 清潔保持に関する次の文章の( )内に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。**

「美容師法では、皮膚に接する布片は客一人ごとに取り替え、器具は客一人ごとに( A )することを定めている。なお、血液が付着又はその疑いのあるタオルは( B )液に浸けた後、洗濯し乾燥させる。また、スチームタオルは( C )による消毒を行う。」

- ① ( A )消毒 — ( B )両性界面活性剤 —— ( C )紫外線 ③ ( A )消毒 — ( B )次亜塩素酸ナトリウム — ( C )蒸気  
② ( A )洗浄 — ( B )次亜塩素酸ナトリウム — ( C )蒸気 ④ ( A )洗浄 — ( B )両性界面活性剤 —— ( C )紫外線

**20 血液が付着した器具に用いることができる消毒法として、正しいものはどれか。**

- ① 0.1%以上の逆性石けん水溶液 ③ 0.1%以上の次亜塩素酸ナトリウム水溶液  
② 0.1%以上の両性界面活性剤水溶液 ④ 0.05%以上のグルコン酸クロルヘキシジン

**21 美容所で使用した器具等の消毒方法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 血液が付着したタオルを0.01%の次亜塩素酸ナトリウム水溶液に5分間浸した。  
② 血液が付着したくしを0.01%の逆性石けん水溶液に10分間浸した。  
③ 血液が付着したかみそりを消毒用エタノールに10分間浸した。  
④ 血液が付着したはさみに紫外線消毒器の紫外線を20分間照射した。

**22 次の消毒方法のうち、美容所で、血液の付着の有無にかかわらず使用できるものはどれか。**

- ① 次亜塩素酸ナトリウムが0.01%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法  
② 消毒用エタノール中に10分間以上浸す方法  
③ 両性界面活性剤が0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法  
④ 逆性石けんが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す方法

**23 美容師法施行規則に定められている消毒法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① カットに用いた、血液が付着していないはさみの消毒は、76.9～81.4%のエタノール水溶液を含ませた綿又はガーゼで器具の表面を拭く  
② 整髪に用いた、血液が付着したくしの消毒は、次亜塩素酸ナトリウムが0.1%以上である水溶液中に10分間以上浸す  
③ 顔剃りに用いた、血液が付着していないかみそりの消毒は、20分間以上1cm<sup>2</sup>当たり85マイクロワット以上の紫外線を照射する  
④ 顔の清拭に用いた、血液が付着した蒸しタオルの消毒は、沸騰後2分間以上煮沸する

- 24 **美容師法施行規則に定められた消毒方法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 血液の付着した器具の消毒は、逆性石けんが 0.1% 以上の水溶液に10分間以上浸す。
  - ② 血液の付着した器具の消毒は、1 cm<sup>2</sup> 当たり 85マイクロワット以上の紫外線を 20分間以上照射する。
  - ③ 血液の付着した器具の消毒は、76.9 ～ 81.4% のエタノール水溶液を含ませた綿又はガーゼで器具の表面を拭く。
  - ④ 血液の付着していない器具の消毒は、沸騰後 2 分間以上煮沸する。
- 25 **血液が付着したタオルの消毒の方法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 80℃を超える温度で 10分間蒸気消毒する。      ③ 沸騰後 2 分間煮沸する。
  - ② 逆性石けんが 0.1% の水溶液に10分間浸す。      ④ 次亜塩素酸ナトリウムが 0.01% の水溶液に 10分間浸す。
- 26 **血液が付着しているはさみに対して美容所で行う消毒の方法として正しいものは、次のうちどれか。**
- ① 0.1%次亜塩素酸ナトリウム水溶液中に10分間浸す。      ③ 0.1%両性界面活性剤水溶液中に10分間浸す。
  - ② 0.1%逆性石けん水溶液中に10分間浸す。      ④ 消毒用エタノールを含ませた綿で表面を拭く。
- 27 **美容師法施行規則に定められている消毒法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 顔の清拭に用いた血液の付着した蒸しタオルは、80℃を超える温度で 10分間蒸気消毒する。
  - ② 整髪に用いた血液の付着したくしは、0.1%の逆性石けん水溶液中に浸す。
  - ③ 顔そりに用いた血液が付着していないかみそりは、0.01%の次亜塩素酸ナトリウム水溶液中に10分間以上浸す。
  - ④ カットに用いた血液が付着していないはさみは、1cm<sup>2</sup>あたり85マイクロワット以上の紫外線を20分間以上照射する。
- 28 **美容所で行う血液が付着している器具の消毒に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 1cm<sup>2</sup>あたり85μW以上の紫外線を20分間以上照射する      ③ 沸騰後2分間以上煮沸する
  - ② 消毒用エタノールを含ませたガーゼで表面を拭く      ④ 0.01%以上の次亜塩素酸ナトリウム水溶液に10分間以上浸す
- 29 **清潔保持に関する次の文章の( )内に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。**  
「美容師法では、皮ふに接する布片は客1人ごとに( A )、器具は客1人ごとに( B )することと定めている。  
また、使用したタオルは、洗濯し乾燥させて再使用するが、血液が付着している場合は、( C )に浸けて消毒する必要がある。」
- ① ( A )消毒し ( B )洗浄 ( C )逆性石けん水溶液      ③ ( A )消毒し ( B )洗浄 ( C )次亜塩素酸ナトリウム水溶液
  - ② ( A )取りかえ ( B )消毒 ( C )次亜塩素酸ナトリウム水溶液      ④ ( A )取りかえ ( B )消毒 ( C )逆性石けん水溶液
- 30 **理学的消毒法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 紫外線でコーム類を消毒する場合、互いに重なり合うように配置する。
  - ② 蒸気でタオルを消毒する場合、水洗いしてから固く絞って横に並べると熱の伝導が早い。
  - ③ 煮沸でシェービング用レザーを消毒する場合、消毒後、湯の温度が下がるまで取り出さずにおく。
  - ④ 煮沸で刃物類を消毒する場合、刃先が互いに触れ合わないよう注意する。
- 31 **理学的消毒法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 紫外線では、真菌(カビ)や芽胞に対する殺菌効果は期待できない。
  - ② 蒸気消毒用タオル蒸し器内の水蒸気圧力は、1気圧よりも低くなる。
  - ③ 煮沸消毒では、栄養型の細菌やウイルスを短時間で死滅できるが、2分程度の煮沸では芽胞を不活化できない。
  - ④ 蒸気消毒は、血液が付着したかあるいは付着した疑いのある器具の消毒にも適用できる
- 32 **殺菌灯から照射される紫外線に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 目や皮膚に直接照射しても害はない。      ③ 波長は320nm前後である。
  - ② 透明な油膜でも遮蔽される。      ④ 芽胞やウイルスには効果がない。
- 33 **殺菌灯から照射される紫外線に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
- ① 目や皮膚に直接照射すると害がある。      ③ 紫外線には、細菌のDNAや細胞壁を破壊する作用がある
  - ② 波長は320nm前後である。      ④ 透明なガラスでも透過しない。
- 34 **美容師法施行規則に定められている理学的消毒法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 紫外線消毒法は、血液が付着しているかみそりに適用できる。
  - ② 煮沸消毒法は、血液の付着した布片類には適用できない。
  - ③ 蒸気消毒法は、90℃を超える温度の蒸気であれば、血液の付着した布片類にも適用できる。
  - ④ 煮沸消毒法は、蒸気消毒法よりも短時間でその目的を達することができる。
- 35 **理学的消毒法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 煮沸消毒は、沸騰後2分間以上煮沸する。
  - ② 煮沸消毒は、被消毒物が水中に沈んだ状態でなくても、蒸気により目的が達成できる。
  - ③ 蒸気消毒は、血液の付着したすべての器具に適用できる。
  - ④ 蒸気消毒は、被消毒物の温度が70℃を超えていればよい。

**36 紫外線消毒器による消毒に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① タオルやケープなど、布片類の消毒に適している。
- ② 紫外線殺菌灯から照射される紫外線は、皮膚に障害を与えることはない。
- ③ 紫外線殺菌灯は、点灯していれば使用期間にかかわらず出力は低下しない。
- ④ 紫外線消毒は、あらゆる微生物に対して効果があるが、被消毒物の表面の殺菌に限られる。

**37 美容師法施行規則による理学的消毒法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① 血液が付着したタオルの消毒は、80℃の蒸気に10分間あてる。
- ② 紫外線による消毒は、血液が付着した器具には適用できない。
- ③ コームの紫外線による消毒は、85マイクロワット/cm以上で、20分間以上照射する必要がある。
- ④ 煮沸消毒の消毒時間は、水が沸騰してから計る

**38 美容師法施行規則に定められた理学的消毒法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① 煮沸消毒は、芽胞も含め、あらゆる微生物に消毒効果がある。
- ② 蒸気消毒は、煮沸消毒より長い時間を要する
- ③ 煮沸消毒は、沸騰後2分間以上煮沸する必要がある。
- ④ 蒸し器を用いたタオルの消毒では、器内が80℃を超えてから10分間以上保持させる必要がある。

**39 紫外線消毒の特徴に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① あらゆる種類の微生物に対して有効である。
- ③ プラスチックの種類によっては、劣化させるものがある。
- ② 被消毒物に油膜による汚れがあっても効果は変わらない。
- ④ 被消毒物ににおいが付かない。

**40 理学的消毒法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 紫外線は、真菌（カビ）や芽胞に対する殺菌効果がない。
- ② 紫外線消毒は、物体の表面だけでなく、その深部や陰の部分も消毒できる。
- ③ 蒸し器による蒸気消毒では、器内の圧力は1気圧よりも高くなる。
- ④ 煮沸消毒は、血液が付着している器具の消毒に適用できる。

**41 美容所で行われる蒸気消毒と煮沸消毒に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 蒸気消毒は芽胞に効果がある。
- ③ 蒸気消毒は血液が付着している器具に適用できる。
- ② 煮沸消毒は芽胞に効果がある。
- ④ 煮沸消毒は血液が付着している器具に適用できる。

**42 次亜塩素酸ナトリウムによる消毒法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① 次亜塩素酸ナトリウムは、漂白作用と殺菌作用がある。
- ② 次亜塩素酸ナトリウム水溶液は、ウイルスに対して効果があるが、金属を腐食させる。
- ③ 0.01%次亜塩素酸ナトリウム水溶液は、10分間で芽胞を不活化する。
- ④ 血液が付着していないタオルの消毒は、0.01%次亜塩素酸ナトリウム水溶液に10分間浸す。

**43 理学的消毒法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 紫外線消毒は、プラスチックの種類によっては劣化させることがある。
- ② 煮沸消毒の際、塩化ナトリウムを水に1～2%の割合で加えておくと殺菌力を増し、金属のさび止め効果がある。
- ③ タオル等を蒸気消毒する際には、80℃でも芽胞を不活化できる。
- ④ 紫外線消毒は、物体の表面だけでなく、その深部や陰の部分も消毒できる

**44 理学的消毒法に関する次の文章の内に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。**

「細菌の芽胞に対して[ A ][ B ]は効果が無いが、[ C ]は効果がある。また、血液が付着したかあるいはその疑いのある器具の消毒に、[ A ]は適用できるが、[ B ][ C ]は適用できない。」

- ① [ A ]紫外線消毒 [ B ]蒸気消毒 [ C ]煮沸消毒
- ③ [ A ]煮沸消毒 [ B ]蒸気消毒 [ C ]紫外線消毒
- ② [ A ]煮沸消毒 [ B ]紫外線消毒 [ C ]蒸気消毒
- ④ [ A ]蒸気消毒 [ B ]煮沸消毒 [ C ]紫外線消毒

**45 紫外線消毒に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 紫外線消毒は、タオルやケープなど、布片類の消毒に適している。
- ② 紫外線消毒は、1cmあたり85マイクロワット以上の紫外線を10分間照射する。
- ③ 紫外線ランプは、使用とともに出力が低下するので、2,000～3,000時間で取り替える必要がある。
- ④ 紫外線消毒は、あらゆる微生物に効果があり、血液の付着した器具の消毒にも適している。

**46 消毒薬の特徴に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 次亜塩素酸ナトリウム水溶液は、濃度が濃い場合でも無色透明な液体である。
- ② 逆性石けん水溶液は、普通の石けん液を加えると沈殿を生じる。
- ③ グルコン酸クロロヘキシジン（クロロヘキシジングルコン酸塩）水溶液は、刺激臭がある。
- ④ 消毒用エタノールは、逆性石けんと併用すると効果が低下する

**47 次亜塩素酸ナトリウムに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① 漂白作用がある
- ② 塩素の刺激臭がある
- ③ 結核菌に対して殺菌力が強い
- ④ 有機物（汚れ）により効力が低下する

**48 紫外線消毒に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 結核菌には効果がない
- ② 被消毒物の内部まで消毒できる。
- ③ 照射時間は10分間である。
- ④ 目や皮膚に直接照射すると害がある。

**49 美容師法施行規則で定める蒸気消毒と煮沸消毒に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 蒸気消毒は、血液が付着している器具に適用できる。
- ② 煮沸消毒は、血液が付着している器具に適用できる。
- ③ 蒸気消毒は、細菌の芽胞に対して効果がある。
- ④ 煮沸消毒は、細菌の芽胞に対して効果がある。

**50 美容師法施行規則で定める消毒の方法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 紫外線による消毒、熱による煮沸消毒及び蒸気消毒だけでなく、放射線や電子線などによる方法が規定されている。
- ② 紫外線消毒は血液の付着がない器具の消毒に使用し、1cm<sup>2</sup>あたり80マイクロワットの紫外線を10分間照射する。
- ③ 煮沸消毒は被消毒物を沸騰後2分間以上煮沸する。
- ④ 蒸気消毒は80℃を超える湿熱に被消毒物を2分間以上触れさせる。

**51 紫外線消毒に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① タオルの消毒に適している。
- ② 被消毒物の深部や陰の部分も消毒できる。
- ③ 紫外線殺菌灯から照射される紫外線は、粘膜に有害である。
- ④ 被消毒物が汚れていても作用は弱まらない

**52 紫外線消毒に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① 血液が付着した器具の消毒には適していない
- ② 紫外線は、目や皮膚に直接照射しても害はない
- ③ 紫外線消毒器に入れる器具は、互いに重なり合わないよう配置する
- ④ 紫外線灯は、使用にともない出力が低下するので、定期的な交換が必要である

**53 化学的消毒法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 消毒用の界面活性剤(逆性石けん、両性界面活性剤)は、毒性が弱く、有機物(汚れ)が存在していても効力は低下しない。
- ② 血液が付着したか又はその疑いのある器具を消毒するための次亜塩素酸ナトリウム水溶液の濃度は、0.01%以上である。
- ③ グルコン酸クロルヘキシジンは、主剤濃度が5%(赤桃色)の製剤と20%(無色)の製剤があり、どちらも0.05%以上の水溶液で用いることができる
- ④ 81.4%以上のエタノール水溶液であれば、綿又はガーゼに含ませて血液が付着した器具の表面を拭う方法を適用できる。

**54 化学的消毒薬の特徴を説明した次の記述のうち、理(美)容師法施行規則に定められた消毒法に使用されていないものはどれか**

- ① 次亜塩素酸ナトリウムは、動物性繊維を溶かしたり、金属を腐食させるが、洗濯洗剤に混ぜて使用することができる
- ② グルコン酸クロルヘキシジンは、主剤濃度が20%の製剤と5%の製剤が市販されており、前者は無色だが、後者は赤桃色に着色してある
- ③ 逆性石けんは、材質への影響はほとんどないが、普通石けんや汚れなどの有機物が入り込むと極端に殺菌力を失う
- ④ 速乾性擦式製剤は、即効的な殺菌効果とその持続性を期待できるが、使用目的は限定的である

**55 消毒薬の特徴に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① エタノールは、結核菌をはじめ栄養型の細菌やウイルスだけではなく、芽胞のある細菌にも効果がある。
- ② 逆性石けんは、普通の石けんと混合しても効果は低下しないが、結核菌には効果がない。
- ③ グルコン酸クロルヘキシジンは、栄養型の細菌には幅広い効果が見られるものの、芽胞や結核菌には効果がない。
- ④ 次亜塩素酸ナトリウムは、栄養型の細菌だけではなく、ウイルスにも効果があり、濃度変化を起こしにくい。

**56 化学的消毒法の特徴に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① エタノール消毒は、ウイルスだけでなく、芽胞のある細菌にも効果がある。
- ② 逆性石けん消毒は、有機物による汚れが存在すると殺菌力は低下するが、芽胞のある細菌に効果がある。
- ③ 次亜塩素酸ナトリウム消毒は、殺菌と同時に漂白・防臭の作用があるが、光分解を受けやすい。
- ④ 両性界面活性剤消毒は、強い殺菌力を持っているが、結核菌には効果がない。

**57 次亜塩素酸ナトリウムに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① 有機物の汚れがあると、殺菌力が低下する。
- ② 消毒作用のほか、漂白作用もある。
- ③ ウイルスの消毒には、全く効果がない。
- ④ 酸性の洗剤と混ぜると、有毒な塩素ガスを発生する。

**58 消毒用エタノールに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**

- ① 76.9%～81.4%のものを使用する
- ② 刃物類の消毒には適していない
- ③ 血液が付着した器具の消毒は、エタノールに5分間浸す
- ④ ほかの消毒薬と反応する場合があるので、単独で用いなければならない

**59 次亜塩素酸ナトリウムの特徴に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① 殺菌と同時に漂白作用がある。
- ② 光や熱に対して安定しており、管理が容易である。
- ③ 有機物が存在すると、消毒効果が低下する。
- ④ 結核菌に対して殺菌の効果がほとんどない。

**60 逆性石けんによる消毒に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**

- ① 人体に対しての毒性は強いが、結核菌や芽胞に対しても殺菌力がある。
- ② 有機物の汚れが存在すると消毒力が低下するので、消毒の前の器具の洗浄が重要である。
- ③ 普通の洗剤が混ざると消毒力が低下するので、付着している洗剤は、消毒前に十分に洗い流す必要がある。
- ④ 布片類には吸着されてしまい消毒力が低下するので、タオルの消毒には適さない。

- 61 次亜塩素酸ナトリウムの特徴に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
- ① 結核菌に対して殺菌力が強い。
  - ② ノロウイルスの不活化に効果がある。
  - ③ 漂白作用がある。
  - ④ 有機物の汚れがあると、殺菌力が低下する。
- 62 消毒薬の特徴と使用方法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 逆性石けんによる消毒は、0.1%以上の水溶液に5分間浸しておく。
  - ② 両性界面活性剤は、普通の石けんと併用すると沈殿を起こし、消毒力が低下する。
  - ③ 次亜塩素酸ナトリウムは、日光では分解しない
  - ④ 両性界面活性剤は、血液が付着している器具の消毒に使用できる。
- 63 美容所で行う化学的消毒法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
- ① 次亜塩素酸ナトリウムは、ウイルスに効果がある。
  - ② 血液が付着していない器具の消毒は、両性界面活性剤が0.1%以上の水溶液に10分間以上浸す。
  - ③ 消毒用エタノールは、ウイルスや結核菌に効果がある。
  - ④ 逆性石けんは、芽胞に効果がある。
- 64 化学的消毒法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 消毒用エタノールは、芽胞のある菌に効果がある。
  - ② 次亜塩素酸ナトリウムは、冷暗所に保存する
  - ③ 逆性石けん液は、普通の石けんと混合使用することで効果があがる
  - ④ 両性界面活性剤による美容用器具の消毒は、0.05%の水溶液に5分間浸す。
- 65 化学的消毒法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
- ① 消毒用エタノールは、揮発性が強いので濃度が変化しやすい
  - ② クロルヘキシジングルコン酸塩（グルコン酸クロルヘキシジン）による消毒は、血液が付着している器具に適用できない。
  - ③ 界面活性剤による消毒は、血液が付着している又はその疑いのある器具に適用できる。
  - ④ 次亜塩素酸ナトリウムは、細菌やウイルスに効果があり、漂白作用もある。
- 66 化学的消毒法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① グルコン酸クロルヘキシジン（クロルヘキシジングルコン酸塩）は、普通の石けんと混合しても効果は低下しない。
  - ② 消毒用エタノールは、引火性があるので、保管や取扱い時に火気を避ける。
  - ③ 両性界面活性剤は、普通の石けんと混合すると効果があがる
  - ④ 次亜塩素酸ナトリウムは、濃度変化をおこしにくい。
- 67 消毒薬の特徴に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
- ① 次亜塩素酸ナトリウムは、ウイルスに対して効果がある。
  - ② エタノールは、逆性石けんと併用すると効果が低下する
  - ③ 両性界面活性剤は、結核菌に効果がある。
  - ④ 逆性石けんは、結核菌には効果がない。
- 68 消毒薬の効力に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか**
- ① 次亜塩素酸ナトリウムは、ノロウイルスに効力がある
  - ② 消毒用エタノールは、細菌の芽胞に効力がある
  - ③ 逆性石けんは、黄色ブドウ球菌に効力がある
  - ④ 両性界面活性剤は、結核菌に効力がある
- 69 化学的消毒法の特徴に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 逆性石けんは、無色無臭で毒性が弱く、ウイルスや結核菌に対して殺菌効果がある。
  - ② 消毒用エタノールは、芽胞型の菌に対して殺菌効果がある。
  - ③ 逆性石けんは、普通の石けんと併用すると消毒力が著しく低下する。
  - ④ 次亜塩素酸ナトリウムに、漂白の作用はない
- 70 両性界面活性剤に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
- ① 結核菌に対して殺菌効果がある。
  - ② 多量の有機物があっても殺菌力は変わらない。
  - ③ 直射日光によっても殺菌力は変わらない。
  - ④ 普通の石けんと併用すると消毒力が低下する。
- 71 化学的消毒法に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。**
- ① 両性界面活性剤は、結核菌に効果がない。
  - ② グルコン酸クロルヘキシジンは、細菌の芽胞に効果がない。
  - ③ 逆性石けんは、中性洗剤と併用することで効果があがる
  - ④ 消毒用エタノールは、逆性石けんと併用すると効果が低下する。
- 72 次亜塩素酸ナトリウムに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
- ① 有機物の汚れがあると、効力が低下する。
  - ② 石けんと反応するので、併用できない。
  - ③ 酸性の洗剤と混ぜると、有毒な塩素ガスを発生する。
  - ④ 日光にさらすと分解するので、冷暗所に保存する。
- 73 消毒薬に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
- ① 逆性石けんは、結核菌に対して効力がある。
  - ② 消毒用エタノールは、細菌の芽胞には効力がない。
  - ③ 両性界面活性剤は、普通の石けんと併用すると効力が低下する。
  - ④ 次亜塩素酸ナトリウムは、有機物の汚れがあると効力が低下する。
- 74 プラスチック製の器具の消毒法として不適切なものはどれか。**
- ① 紫外線消毒
  - ② 煮沸消毒
  - ③ 逆性石けん消毒
  - ④ グルコン酸クロルヘキシジン消毒

- 75 被消毒物とその消毒法の次の組合せのうち、最も適切なものはどれか。**
- ① カット用レザー(かみそり) — 0.001%次亜塩素酸ナトリウム水溶液に5分間以上浸す方法  
 ② センシングレザー — 0.05%グルコン酸クロルヘキシジン水溶液に10分間以上浸す方法  
 ③ 乾燥タオル — 0.1%逆性石けん水溶液に10分間以上浸す方法  
 ④ プラスチック製セットコーム — 沸騰後2分間以上煮沸する方法
- 76 プラスチックでできている器具の消毒法として、適当でないものは、次のうちどれか。**
- ① グルコン酸クロルヘキシジン消毒法 ② 逆性石けん消毒法 ③ 両性界面活性剤消毒法 ④ 煮沸消毒法
- 77 消毒の注意事項に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
- ① 動物毛製のブラシは、煮沸消毒が適している。  
 ② 次亜塩素酸ナトリウム水溶液は、金属を腐食することがあるので、浸漬時間に注意する。  
 ③ 毛払いブラシなどの毛足の長いブラシは、薬液消毒が適している。  
 ④ 蒸し器によるタオルの消毒では、タオル内部が80℃を超える温度で10分間以上保つ。
- 78 被消毒物と消毒法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 金属製品は、塩素系薬剤による消毒が適している。 ③ ブラシ類は、煮沸消毒が適している。  
 ② 陶磁器は、煮沸による消毒が適している。 ④ 革製品は、蒸気による消毒が適している。
- 79 被消毒物と消毒方法に関する次の組合せのうち、適切でないものはどれか。**
- ① 木綿のタオル ----- 蒸気消毒 ③ 鼈甲の櫛 ----- 煮沸消毒  
 ② 合成樹脂製の毛払いブラシ ----- 薬液消毒 ④ ステンレス鋼の鋏 ----- 紫外線消毒
- 80 器具と消毒法に関する次の組合せのうち、誤っているものはどれか。**
- ① タオル ----- 次亜塩素酸ナトリウム水溶液 ③ 毛はらいブラシ ----- 紫外線  
 ② くし ----- 逆性石けん水溶液 ④ はさみ ----- 消毒用アルコール
- 81 血液が付着している疑いのない用具類の消毒方法として、誤っているものはどれか**
- ① はさみを沸騰後2分間以上煮沸する ③ かみそりの表面を消毒用エタノールを含ませた綿で拭く  
 ② クリッパーの刃を0.1%逆性石けん水溶液に10分間以上浸す ④ くしを0.01%次亜塩素酸ナトリウム水溶液に10分間以上浸す
- 82 美容所の清潔の保持に関する次の文章（ ）の内に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。**  
**「美容師法では、皮ふに接する布片は客1人ごとに（ A ）、器具は客1人ごとに（ B ）することと定められている。**  
**また、使用したタオルは、洗濯し乾燥させて再使用するが、血液が付着している場合は、（ C ）に浸けて消毒する必要がある。」**
- ① A：消毒し B：洗浄 C：次亜塩素酸ナトリウム水溶液 ③ A：取り替え B：消毒 C：両性界面活性剤水溶液  
 ② A：消毒し B：洗浄 C：両性界面活性剤水溶液 ④ A：取り替え B：消毒 C：次亜塩素酸ナトリウム水溶液
- 83 美容所における器具・布片の取扱いに関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。**
- ① 皮膚に接する器具は、十分に洗浄してから消毒する。  
 ② タオルの消毒は、80℃を超える蒸気に2分間以上触れさせる。  
 ③ 血液の付着していないかみそりの消毒は、エタノール水溶液を含ませた綿で表面を拭く。  
 ④ ヘアドライヤーは、皮膚に接する器具にあたる。
- 84 消毒薬の希釈や器具の使い方に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。**
- a メスシリンダーの読み方は、目を液面の高さに合わせ、真横から液面の高いほうを読む。  
 b 薬品は、容器のラベルの反対側をもって注ぐ。  
 c 消毒薬の希釈倍数（倍）は、溶液量を溶質量で割った値である。  
 d 薬品の臭いを嗅ぐときは、手のひらで容器の口をおおぎ、鼻のほうへ流れてくる気体を嗅ぐ。  
 ① aとb ② bとc ③ cとd ④ aとd
- 85 次亜塩素酸ナトリウム水溶液の調製に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
- ① 水98に対して5%次亜塩素酸ナトリウム2の割合で混合すると、0.1%水溶液になる。  
 ② 水99に対して5%次亜塩素酸ナトリウム1の割合で混合すると、0.01%水溶液になる。  
 ③ 5%次亜塩素酸ナトリウムを50倍希釈すると、0.01%水溶液になる。  
 ④ 5%次亜塩素酸ナトリウムを100倍希釈すると、0.1%水溶液になる。
- 86 消毒薬使用液(希釈液)の調製に関する次の記述のうち、法令の規定に適合しないものはどれか。**
- ① 10%逆性石けん製剤の10mlを水990mlで希釈する。 ③ 5%グルコン酸クロルヘキシジン製剤の1mlを水99mlで希釈する。  
 ② 15%両性界面活性剤製剤の5mlを水495mlで希釈する。 ④ 5%次亜塩素酸ナトリウム製剤の1mlを水999mlで希釈する。
- 87 血液の付着していない、あるいはその疑いのない皮膚に接する器具の消毒薬使用液(希釈液)の調製に関する次の記述のうち、使用液濃度として適合しないものはどれか。**
- ① 10%逆性石けん製剤5mlを水495mlで希釈する。 ③ 5%グルコン酸クロルヘキシジン製剤1mlを水499mlで希釈する。  
 ② 15%両性界面活性剤製剤10mlを水990mlで希釈する。 ④ 6%次亜塩素酸ナトリウム製剤20mlを水1180mlで希釈する。



88 消毒薬使用液(希釈液)の調製法に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 0.1%逆性石けん水溶液は、10%逆性石けん製剤10mlに水990mlを加える。
- b 5%次亜塩素酸ナトリウム製剤5mlを水495mlで希釈すると、0.05%次亜塩素酸ナトリウム水溶液になる。
- c 0.05%グルコン酸クロルヘキシジン水溶液は、5%グルコン酸クロルヘキシジン製剤5mlに水995mlを加える。
- d 10%両性界面活性剤製剤1mlを水499mlで希釈すると、0.1%両性界面活性剤水溶液になる。

① aとb    ② bとc    ③ cとd    ④ aとd

89 消毒薬使用液(希釈液)の調整法に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 5%次亜塩素酸ナトリウム製剤10mlを水490mlで希釈すると、0.1%次亜塩素酸ナトリウム水溶液になる。
- b 10%逆性石けん製剤10mlを水990mlで希釈すると、0.1%逆性石けん水溶液になる。
- c 5%グルコン酸クロルヘキシジン製剤5mlを水995mlで希釈すると、0.05%グルコン酸クロルヘキシジン水溶液になる。
- d 10%両性界面活性剤5mlを水995mlで希釈すると、0.1%両性界面活性剤水溶液になる。

① aとb    ② bとc    ③ cとd    ④ aとd

90 消毒薬使用液(希釈液)の調製法に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 0.2%両性界面活性剤水溶液250mlを調製するためには、10%両性界面活性剤溶液5mlが必要である。
- b 0.1%逆性石けん水溶液1000mlを調製するためには、10%逆性石けん溶液10mlが必要である。
- c 0.05%グルコン酸クロルヘキシジン水溶液1000mlを調製するためには、5%グルコン酸クロルヘキシジン溶液5mlが必要である。
- d 0.1%両性界面活性剤水溶液500mlを調製するためには、10%両性界面活性剤溶液10mlが必要である。

① aとb    ② bとc    ③ cとd    ④ aとd

91 消毒液の濃度の表し方に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 消毒液100mlの中に消毒薬の主剤を3ml含む消毒液の百分率は3%である。
- ② 消毒液100mlの中に消毒薬の主剤を2ml含む消毒液の百万分率は20,000ppmである。
- ③ 消毒液100mlの中に消毒薬の主剤を1ml含む消毒液の混合比は水99対主剤1である。
- ④ 消毒液100mlの中に消毒薬の主剤を4ml含む消毒液の希釈倍数は40倍である。

92 消毒薬使用液の調製に関する次の文章の( ) 内に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。

「希釈倍数(倍)は  $\frac{A}{B}$  として、百分率(%)は  $\frac{100}{\text{希釈倍数(倍)}}$  として示される。よって、希釈倍数  $\frac{A}{B}$  倍の水溶液は、4%溶液である。」

- ① A : 溶液量    B : 溶質量    C : 2.5    ③ A : 溶質量    B : 溶液量    C : 4
- ② A : 溶液量    B : 溶質量    C : 25    ④ A : 溶質量    B : 溶液量    C : 40

93 5%次亜塩素酸ナトリウムを希釈して、0.1%次亜塩素酸ナトリウム水溶液1,000mLを調製する場合の5%次亜塩素酸ナトリウムの量は、次のうちどれか。

- ① 1mL    ② 2mL    ③ 10mL    ④ 20mL

94 10%逆性石けん液から0.1%逆性石けん水溶液を調製する方法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 10%逆性石けん液1mLに、水499mLを加える。    ③ 10%逆性石けん液1mLに、水49mLを加える。
- ② 10%逆性石けん液1mLに、水99mLを加える。    ④ 10%逆性石けん液1mLに、水9mLを加える。

95 次のうち、5%次亜塩素酸ナトリウム2mLを希釈して、次亜塩素酸ナトリウム水溶液1,000mLを調製した場合の濃度はどれか。

- ① 0.01%    ② 0.05%    ③ 0.10%    ④ 2.50%